

■講演会「アートと材料—東京科学大学で窯業・民藝を考える—」

日時 2025年1月25日（土） 午後2時～4時

参加無料／要事前登録／対面とオンラインのハイブリッド方式／
終了後、会場にて懇親会を開催（1時間程度）

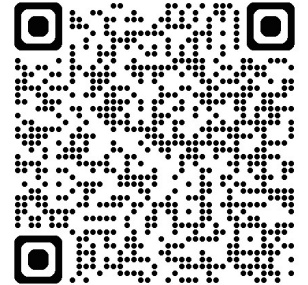
会場 東京科学大学 大岡山キャンパス 南7号館2階 201/202号室

主催 無機材会

協力 物質理工学院 材料系 無機材料分野、リベラルアーツ研究教育院

事前登録はこちらから→

(<https://forms.gle/rDng1ss1vXrN8cS19>)



東京高等工業学校校舎（蔵前）／画像引用元：『東京高等工業学校一覧』（1916）

東京科学大学（旧・東京工業大学）は、その最初期から、窯業や民藝の問題と深い関わりを持っていました。よく知られるように、東京高等工業学校時代の窯業科からは、民藝運動を創始した陶芸家である河井寛次郎・濱田庄司が卒業し、東京工業大学時代の窯業学科からは、民藝運動第二世代の陶芸家・島岡達三が卒業しました。本学の歴史において材料の問題は、窯業・民藝を結節点として、少なからずアートの問題と共にあったのです。本講演会では、彼らの作品や歩みが今日に示唆するものについて、皆さんと考えます。

■講師 佐々風太（東京科学大学 リベラルアーツ研究教育院 研究員）

1996年札幌市生まれ。東京工業大学大学院博士後期課程修了。博士（学術）。

柳宗悦・民藝運動を中心とする近現代工芸を専門とし、特に民藝運動における理論と制作の関係について研究している。論文「『用いる』ことをめぐる柳宗悦の思想—『仏教美学』との関わりに注目して」で第19回涙骨賞奨励賞受賞。日本民藝協会機関誌『民藝』編集委員。